



## 辰水神社のジャンボ干支

グリーンロード(市道白山芸濃線)と、県道411号の交差点を東へ入り、すぐの辰水神社南交差点を北進すると、近年「ジャンボ干支」で知られる辰水神社が見えてきます。

辰水神社の起源は定かではありませんが、「美里村史」によると、天文年間(1532～1555年)の兵乱により神社を含む村全体が荒廃し、その後江戸時代の寛永年間(1624～1644年)に、住民が初代津藩主の藤堂高虎公に復興を願い、神社が再建されたとされています。明治4(1871)年に、家所地区内の八社が合祀され辰ノ口神社と改称し、明治41年にはさらに地区内の全神社が合祀され辰水神社となり、翌年の合祀祭を経て現在に至ります。

辰水神社前に初めてジャンボ干支が飾られたのは、昭和61年の寅の年。農業後継者だった「城山十二人衆」により、文化振興と地域活性化を願い制作されたのが始まりです。平成10年に城山十二人衆は「ふるさと愛好会」と名称を変

え、毎年11月下旬から約1カ月をかけて、全長3.5m、高さ2m、重さ200kgほどのその年に合った干支が作られています。

完成したジャンボ干支は、例年12月29日に小学生を中心とした地元有志に引かれ地区内を練り歩き、お披露目されます。そして辰水神社前のくぐり門に据え付けられ、翌年2月末まで参拝者を迎えます。かつて城山十二人衆が願った地域振興への思いは後進へ受け継がれ、現在、ジャンボ干支は市内外から多くの人を訪れる新年の風物詩となっています。

当初、ジャンボ干支はその役目を終えたと取り壊されていましたが、平成10年からは希望者に譲渡されるようになり、今では市内各地で見ることができます。この年末年始には、38体目を数える迫力ある兎のジャンボ干支を見に辰水神社を訪れ、また市内各地に飾られる歴代の干支を探してみたいはいかがでしょうか。



令和4年の寅(辰水神社前)



平成23年の兎(美杉地域内)



午のジャンボ干支を制作するふるさと愛好会(平成26年)

